

令和8年10月7日
釧路開発建設部

第41回釧路開発建設部総合評価審査委員会の審議概要について

令和8年9月7日（月）に開催しました第41回釧路開発建設部総合評価審査委員会の審議概要を、別紙のとおりお知らせいたします。

【問合せ先】

国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部

技術管理課 課長 高谷 智文 電話：0154-24-7147

技術管理課 課長補佐 佐藤 裕樹 電話：0154-24-7174

釧路開発建設部ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/ks/>



第 4 1 回 釧路開発建設部総合評価審査委員会審議概要

開催日・場所	令和8年9月7日(月) 釧路地方合同庁舎 5階 共用会議室	
委員	委員長 草薙 敏夫（独立行政法人国立高等専門学校機構釧路工業高等専門学校名誉教授） （公益財団法人釧路根室圏産業技術振興センター専務理事） 岸 徳光（国立大学法人室蘭工業大学大学院特任教授） 宮森 保紀（国立大学法人北海道大学大学院工学研究院教授） 宗岡 寿美（国立大学法人北海道国立大学機構帯広畜産大学教授） 山本 泰司（学校法人北海道科学大学教授）	
議 事	1 報 告 （1）「釧路開発建設部 総合評価落札方式及びプロポーザル方式の実施状況」 2 審 議 （1）工事における総合評価落札方式の実施結果について ①一般国道44号 厚岸町 門静改良工事 ②釧路港－14m航路泊地浚渫工事 （2）業務における総合評価落札方式の実施結果について ①釧路川河川基本技術資料検討外業務 ②川湯跡佐北地区 アメマス川支線明渠排水路外設計等業務	
委員からの意見・質問、それに対する回答等		
意 見・質 問		回 答
【1 報 告】 （1）総合評価落札方式及びプロポーザル方式の実施状況について ・業務における総合評価落札方式(簡易型)において、簡素型+若手・緩和の平均参加者数が他より多い結果となっているが、前年に比べて増えている傾向にあるのか。 【2 審 議】 (1)工事における総合評価落札方式の実施結果について （抽出された2件の工事について、概要説明及び審議を行った。） ① 一般国道44号 厚岸町 門静改良工事「一般競争入札・施工能力評価型Ⅰ型」 ・留意事項の品質確保について、評価されなかったのはなぜか？ ・落札者の入札金額が一番高いが、高い金額でも落札者となっている点について伺いたい。 ・本工事は、難易度的には高い工事としは見受けられないが、Ⅰ型とした根拠を伺いたい。		・参加者数は比較で言えば昨年度とほぼ同じである。 （以下、応札者の提案又はその評価に係わる内容は技術提案に関する機密保持の観点から記載しない。） ・具体的な記載がなかったため、評価できなかった。 ・総合評価落札方式であるため、金額だけではなく、良い品質のものを提供可能な技術力を持っているかの評価も必要。これらも踏まえ、価格と技術力の総合評価を評価値として判断して決定している。 ・工事規模や工事区分、難易度など総合的に判断しⅠ型としている。

委員からの意見・質問、それに対する回答等	
意 見・質 問	回 答
② 釧路港－14m航路泊地浚渫工事「一般競争入札・技術提案評価型S型」 ・本工事をS型としたのは、工事の規模というよりは技術的なものを求めて設定したということか。 ・結果的に技術評価項目に各者差が出なかった要因を伺いたい。 ・しゅんせつ工事ではこのような傾向が多いのか。 (2)業務における総合評価落札方式の実施結果について (抽出された2件の業務について、概要説明及び審議を行った。) ① 釧路川河川基本技術資料検討外業務 「簡易プロポーザル方式に準じた手続き」 ・提案書において水害リスク評価のことが記載されているが、今、全国で話題となっている線状降水帯等、大きな被害をもたらしている事象についても今後検討されるのか伺いたい。 ② 川湯跡佐北地区 アメマス川支線明渠排水路外設計等業務 「簡易公募型競争入札方式に準じた手続き（総合評価落札方式（簡易型1：1）、簡素型、一括審査方式、技術者育成（若手・緩和））」 ・応募者数が20者と多かったが、技術者育成型の効果と考えてよいのか。 ・業務理解度や実施手順などは各者なかなか差がつかないと思われる部分もあるがいかがか。 【上記、工事・業務について適切な評価と認める。】	・本工事でのしゅんせつ工事は、技術的な工夫の余地が大きいと考えられることから、提案を求めるためにS型に設定した。 ・各者、現場条件を十分に把握しており、結果的に同じ点数となった。 ・一概には言えない。テーマの内容については、今後とも精査していきたい。 （以下、応札者の提案又はその評価に係わる内容は技術提案に関する機密保持の観点から記載しない。） ・本業務では含まれていない。 近年、釧路川流域においても線状降水帯の発生が見られることから、今後検討を考えたい。 ・技術者育成型の試行効果も寄与していると考えられる。 ・点数差がつかない場合もあるが、参加者の技術力を確認するためにも必要な項目と考えている。 以 上